

赤十字奉仕団だより



赤十字の基本原則

第41号

人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、世界性

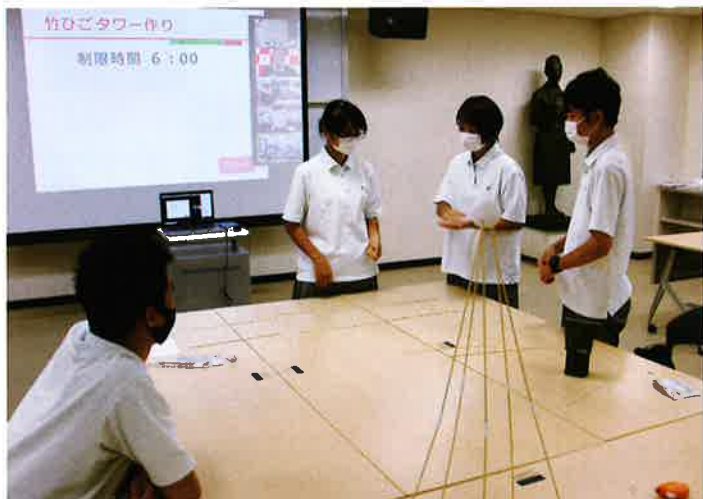


写真 〔左上〕 青少年赤十字トレーニングセンター 〔右上〕 奉仕団支部委員会総会
〔中央〕 ツエーゲン金沢赤十字応援試合（北陸大学学奉）
〔左下〕 宮竹小学校福祉授業（能美市） 〔右下〕 全日本競歩輪島大会（安全法）

支部委員会委員長就任あいさつ

赤十字奉仕団石川県支部委員会 委員長 寺本 良之

このたび、赤十字奉仕団石川県支部委員会の役員任期満了に伴う改選で、4月の支部委員会総会において、皆様方のご推挙により委員長の要職に就くことになりました。各位のご指導ご鞭撻をいただき、赤十字の基本原則に則り、奉仕団としての使命を果たしたいと思っています。

昨年来からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、奉仕団の活動も大幅に制限されました。ワクチン接種が進められていますが、未だ先の見えない状況は変わっておりません。奉仕団員の皆様方におかれましては、今後の感染状況を見据えたうえで、奉仕団活動を行う際は、感染対策を十分していただけますようお願いいたします。



金沢市地区の奉仕団が本やCDなどの不要品を集め寄付を行いました

金沢市地区奉仕団連絡協議会 委員長 吉本 外明

金沢市地区奉仕団連絡協議会ではコロナ禍でチャリティーバザーの開催ができず、人が集まらなくてもできる寄付活動を試みようと、ブックオフの寄付プログラムを活用した取り組みを行いました。

6月から7月にかけて市内の奉仕団に不要品の回収を呼びかけ、段ボール約70箱分の本やCD、DVD、ゲームが集まりました。集まった本やCDはブックオフへ送り、買取金額にブックオフが10%を上乗せした金額28,786円を「赤十字国際活動事業資金」として日赤石川県支部へ寄付しました。



ブックオフの寄付プログラムとは

不要なリユース品をブックオフが買い取り、その『買取金額 + 10%』が日本赤十字社に寄付される社会貢献プログラムです。



※詳しくは県支部ホームページまで

市内小中学校で福祉体験授業を実施して

能美市赤十字奉仕団チーム20 委員長 田中 策次郎

能美市赤十字奉仕団チーム20は市内小中学校で毎年約8回福祉体験授業を行っています。

学校敷地内で、車いすとアイマスクの体験をしてもらい、障がいのある方が何に困っているのかを体感します。体験後に障がいのある方と、どのように接すれば良いのかを話し合い、体験を通じて、児童に障がいのあるなにかかわらず人に寄り添い思いやる気持ちの大切さを理解してもらい、児童が地域で、高齢者や障がい者とどのように関わるかを考えてもらっています。



長坂台校下ほしぞら学童クラブで防災教室を開催して

長坂台校下赤十字奉仕団 委員長 土倉 克己

長坂台校下奉仕団では、夏休みを利用して、校下にあるほしぞら学童クラブの児童25名に、コロナ禍における差別や偏見をしないことや台風や大雨による水害の防災に関する講習会を実施しました。

講師として日赤石川支部から2名の職員に来てもらい、1、2年生と3、4年生のグループにそれぞれ分かれ、イラストや映像を交えた説明をしていただきました。

子どもたちは熱心に説明に聞き入っており、「台風が怖いことがわかった」「今度は、地震のことも学びたい。」「来年も来てほしい。」といった感想があり、有意義な講習会となりました。



ツエーゲン金沢赤十字応援試合での活動

北陸大学学生赤十字奉仕団 柄澤 李佳

5月9日にツエーゲン金沢赤十字応援試合が開催され、ボランティアスタッフとして参加しました。赤十字のブースでは赤十字活動資金の募金、災害時に役立つ救援物資の展示やローリングストックおよび電気自動車の紹介などを行いました。

試合開始前に多くのサポーターの方々がブースに立ち寄ってくださり、説明を聞いていただいた方には、パックご飯をプレゼントしました。私自身も災害に備えて何を準備しておくべきなのか改めて学ぶことができました。また、コロナ禍であり活動ができていなかったため、久しぶりに様々な方と関わる事ができて楽しかったです。



全日本競歩輪島大会の救護活動に参加して

石川県赤十字安全法奉仕団 寺西 好紀

4月10日から11日の2日間、第105回日本陸上競技選手権大会50km競歩・第60回全日本競歩輪島大会の救護活動に参加しました。

この大会は、東京2020オリンピック競技大会の延期等を受けて、男子50km・女子20kmについて既に代表選手に内定した者以外の代表選手選考を行う大会を兼ねた大会です。

両日とも天候は晴れで、活動のしやすい環境でした。ただ、いつもと違うところは、コロナ禍で行われる大会ということで、沿道での応援は自粛され、大会関係者は感染対策を行いながらの開催となりました。幸い、負傷者や体調不良者はなく大会は無事に終了することが出来ました。

東京2020オリンピックは、残念ながら無観客での大会となりましたが、この輪島大会で、テレビでは得られない生の選手の気迫を感じながら、各選手のサポートが出来た事は、とても良い経験となりました。



ワイヤーズXの非常災害通信への可能性

石川県無線赤十字奉仕団 富原 悟史

無線赤十字奉仕団では緊急事態に備え奥能登地区から加賀地区まで常時通信可能な状態を保つため、ワイヤーズXというシステムを活用しています。これはアマチュア無線とインターネット回線を使った通信方法で世界中と通信することも可能になるというものです。

全国の無線赤十字奉仕団にも活用している県があり、通信訓練を実施するなど緊急時に全国で通信ができる体制を構築していきたいと考えています。



JRCトレセンを開催して

石川県青少年赤十字賛助奉仕団 平田 和伸

7月29日「JRCリーダーシップ・トレーニング・センター」を開催し、JRC（青少年赤十字）の小中高の児童・生徒53名が参加しました。

例年宿泊形式で行っていますが、今年はオンラインのみの開催となりました。赤十字についての学習や、国際理解（エチオピアのくらしと日本の関係）、防災コミュニケーションワークショップ（竹ひごタワー）、救急法（三角巾）などを行いました。

初めてのオンライン開催となり戸惑いもありましたが、「気づき」「考え」「実行」することの大切さを子どもたちに伝えることができました。



あしがき

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、各奉仕団で知恵を絞り感染対策を徹底して活動を行いました。新型コロナウイルス感染症の少しでも早い収束を願っております。

編集委員 松本、北村、田中、村中、吉本

※日赤石川県支部のホームページからも奉仕団だよりを閲覧することができます。

